

教学半也

令和6年9月12日

No.8

よりよい授業づくりを
目指す全ての読者対象

第3回授業づくり研修会

令和6年8月20日（諏訪・上伊那地区合同開催）

ねらいの達成を見とどけ、次の授業・支援へ



第3回の今回は、前回までの「ねらい」「めりはり」に続き、「見とどけ」がテーマでした。教師が「ねらいの達成を見とどける」ことを授業づくりや子供への支援につなげていく大切さを学びながら、3観点に基づき、2学期からの授業を構想していく姿がありました。

見とどける

誰が？ **教師が**
何を？ **ねらいの達成を**

- ・ねらいを達成できるようなめりはりのある授業づくり
- ・C評価の子供への支援



学習のねらいや学習問題、学習課題などを明確に設定するからこそ、授業終末での子供たちの姿をイメージし、ねらいの達成を「見とどける」ことの大切さを学ばさせていただきました。また、支援を必要とする子供への個別支援の大切さについても、具体的なアドバイスをいただくことができ、早速2学期からの授業づくりに取り入れていきたいと思えます。

(参加者の感想)



「指導と評価の一体化」の観点から、自分の授業を見つめ直してみると、今までは子供の活動を見守っているだけだったことに気がきました。2学期からは、特に学習が苦手な子供を中心に、見守るだけでなく、個別指導を積極的に行って、授業がわかったと感じてもらいたいです。

(参加者へのインタビュー)



「見とどける」ことにより、明日の授業へ子供たちの学びをつなげていく。そうした日々の積み重ねが、いずれ、子供自身の「笑顔」につながっていきます。試行錯誤の過程を楽しみながら挑戦してみたいはいかがでしょうか。

令和6年度児童生徒の英語力向上支援事業の一環として、中学生「1日海外留学疑似体験」が行われました。英語に興味・関心をもっている県内の中学生が、学習してきた英語を活用したり、英語の説明を聞いてから活動したりするプログラムに参加しました。8月9日にTokyo Global Gateway GREEN FORESTで実施されたプログラムについて、ご紹介します。



エアポートシーン

～学習してきた英語を活用するプログラム～



ギフトショップでのやり取り



レストランでのオーダー

空港内のギフトショップやレストランの店員、機内の客室乗務員との英語でのやり取りを通して、自分の要望を伝える体験をしました。ギフトショップでは、“That item is sold out.”と言われたり、レストランでは、“Anything else?”と尋ねられたりしていました。

【参加者の感想】 要望を相手に伝えるだけではなく、相手からの質問に、その場で答えを考えて話すことができた。日常の中では、こういう会話が当たり前なので、いろいろな場所で様々な人々と、もっと自然なやり取りができるようになりたい。

プログラミングを体験しよう

～英語の説明を聞いて活動するプログラム～



まず、幾何学やプログラミングの基本、Celtic knots (ロボットが描く模様) について、英語の説明を聞きました。次に、ロボットが指定されたデザインを描くことができるように、端末にプログラミングコードを入力しました。

【参加者の感想】

- ・習ったことがない単語があっても、「ロボットを動かしたい!」という思いから、意味を予想しながら聞くことができた。
- ・説明のすべてを理解することができず不安だったが、実際にプログラミングをするときに、同じグループの人と相談しながら、協力して楽しく活動することができた。

参加した中学生は、「学習してきた英語が通じたので、自信がついた」と感じ、英語学習への意欲をさらに高めていました。生徒は、相手や目的に合わせて、自分の考えを表現したり、情報を理解したりしようとしています。普段の授業でも、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などが明確であると、生徒の取り組み方に変化が見られそうです。



「ちょっと読んでみよう」（資料紹介）

『先生方のICT活用技能は、どのSTEPですか？』

長野県ICT教育推進センターでは、県のICT教育の方向性の共有、先進的な実践の共有・普及のため、年度ごとの目標や実践事例など、様々な情報を発信しております。学校でのICT活用の参考にしていただければと思います。



長野県ICT教育推進センターHP

令和6年度の目標

子供たち全員が、問題発見・解決の過程でクラウドを活用できる（2年目）

広報を含む情報発信の工夫



学習指導等支援
ビジョンを示し、
目指す授業の指針
を策定

研修・周知
1人1台端末の意義、
教職員への研修、
家庭への周知

各教科等における
資質・能力の育成

「個別最適な学び」と
「協働的な学び」の
一体的な充実



活用のための整備
問合せ先設置、ネット
ワーク整備、指導者用の
学習指導端末、クラウドID

持ち帰り、支援体制
端末持ち帰り実施の
ためのルールと家庭
との連携

長野県ICT教育推進センター

市町村（学校組合）
教育委員会

ID・Pass タイピング
情報モラル



【課題の設定】
疑問や願いなどの共有、課題
の設定に向けた意見交換

【まとめ・表現】
互いのまとめの共有、
他者からのコメント
などの確認や他者評
価を踏まえた自己評
価の充実

【情報の収集】
収集した資料などの共有や情報の
やり取り

【整理・分析】
多様な情報を「比較」「分類」「序
列化」「関連付け」などにより見える化

クラウドによる同時共同編集

学校



先生たちが クワに 近づくと	使いながら 習得	児童生徒と 先生との 双方向での つながり
答えが一つ ではない 授業	同時共同 編集	やわらかい 雰囲気での 意見交換
発表、 児童生徒が フレンドリー な場での 設定	児童生徒が 主体的に 取り組む活動	他の実践を 真似

教員のICT活用技能レベル向上と支援・研修のスケジュール

令和6年度の目標：子供たち全員が、問題発見・解決の過程でクラウドを活用できる（2年目）

日常への溶け込み
がはじまる



授業の中で主体的
な活用が広がっていく



日々の授業で
関わって探究していく



どのSTEPに当
てはまるか振
り返ってみて
ください。

STEP1
クラウドを
活用して授業を
行っている

STEP2
教科のねらいや
授業改善をふま
え、全教員がク
ラウドによる同
時共同編集によ
る授業ができる

STEP3
教科のねらいや
授業改善の視点
で、全教員がク
ラウドによる同
時共同編集によ
る授業ができる

STEP4
教科のねらいを達
成するため、子
供たちが問題発
見・解決していく
過程でクラウド
を活用する授業
ができる

STEP5
教科のねらいを達
成するため、日
常的に全教員がク
ラウドを活用し、
デジタル教科書と
組み合わせ、授業
改善を進める

自分なりの
問題解決に取り組んでいく



R6 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 / R7~

指導主事 訪問研修	クラウドをフル活用した授業づくりや CBTに関する研修	デジタル教科書導入と活用・授業改善 生成AIの活用にもむけて
センター 研修	教科ごと	すべての講座で授業への活用研修
リーダー 研修	指導主事研修	校長・教頭研修 (全教員対象) 毎年開催・教育課程研究協議会 (校内研修にて) ICT活用による授業づくりをブラッシュアップ